

平成 2 7 年 度

公営企業会計決算審査意見書

湯沢町監査委員
高野 繁太郎
角 谷 勉

(目 次)

第1	審査の概要	1
第2	審査の結果	1
第3	審査意見	1
第4	決算の概要	3

平成27年度湯沢町公営企業会計決算審査意見

第1 審査の概要

1 審査の対象

湯沢町水道事業会計決算
湯沢町病院事業会計決算

2 審査の期間

平成28年7月7日 1日間

3 審査の手続き

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び付属明細書について、関係法令に準拠して作成され、当事業の経営成績及び財務状態を適正に表示しているかどうかを検証するため、会計帳票及び関係証書類との照合等通常実施すべき審査手続きを実施した。

なお、審査にあたっては、当事業が経済性を発揮し、公共の福祉を増進するよう運営されていたかどうかを検討した。

第2 審査の結果

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び付属明細書は、関係法令に準拠して作成されており、当事業年度の経営成績及び当年度末現在の財政状態を適正に表示しているものと認められた。

第3 審査意見

1 水道事業会計について

今年度の決算では、昨年度に続き当期純利益で 41,800 千円となりました。引続き給水収益の増加は難しい中で、今まで以上に施設の老朽化に伴う修繕費用等の総係費の増加が見込まれています。

今後、独立採算を維持するために、使用料金の徴収率向上や諸経費の削減は不可欠です。

ここ5年間の徴収率と滞納額の推移を見てみますと、徴収率、滞納額共に大幅な改善がみられる事は、大いに評価するところです。使用者に不公平感を持たせないためにも、引き続き、今後も徴収率の改善に努力して下さい。

2 病院事業会計について

今年度の決算では、昨年度に続き当期純損失で42,196千円となりました。

指定管理者の経営状況は、企業努力や魚沼地域の病院再編の関係もあり、患者数の増加が見られ、収益も改善が図られたことから経営健全化交付金も予算比15,000千円の減少となりました。

しかし、今後においてはなお、依然として厳しい経営状態が続く事が予想されます。病院

会計の恒常的な赤字体質改善のため、従前以上により一層の経営の効率化や診療体制の充実等が急務であることは明白と解します。

今後も今まで以上に地域医療の核として町民が安心して、安全に暮らせる町づくりのため、「地域に信頼され愛される、かかりつけ病院」となるよう指定管理者と町が一体となって病院を盛りたてる方策を考え、より一層、経営が安定するよう望みます。

なお、当公営企業会計の決算の概要は、後述のとおりです。

「別表1」

剰余(欠損)金およびその処理方法

単位:千円 (税抜き)

区 分		事 業	水 道	病 院
前年度繰越利益剰余金 (前年度繰越欠損金)			1,779,251	-564,004
当 年 度 純 利 益 (当年度純損失)			41,800	-42,196
当年度未処分利益剰余金 (当年度未処理欠損金)			145,480	-606,201
資本利益剰余金繰入額				
処 理 計 算 書 (案)	積 立 金 繰 入	減債積立金		
		利益積立金		
		建設改良積立金		
		計		
翌年度繰越利益剰余金 及び欠損金			145,480	-606,201

第4 決算の概要

1. 水道事業会計

平成27年度の水道事業会計決算(税抜き)は、収益的収支で総収益380,385千円、総支出338,585千円で当年度純利益は41,800千円となり、利益は前年度比で5,160千円減少した。

営業収益は、前年比12,340千円(3.9%)減少し、営業費用は1,541千円(0.5%)増加した。なお、特別損失3,604千円の減少となった。

ここ数年来においては、有収水量及び有収率の漸減の進捗が著しいことを鑑み、より一層、費用対効果に則して、必要な修繕箇所の見極めに配慮してください。

使用料の滞納額は、今年度においても対前年度に比して6,368千円(-16.9%)も減少し、31,223千円となりました。水道料にかかる徴収対策が徴税部門に比してもより進んでいることを顕著に示しており、特に大口滞納者の過年度分が減少していることは大いに評価をしております。

こまめに連絡を取って納付を勧奨する、果敢に給水停止措置を取るといった日頃からの職員の業務に対する真摯な取組が結実しているようです。

資本的収支に係る主な建設改良事業としては、芝原三俣線配水連絡管新設工事、中央簡水原電気計装設備更新工事等の事業が行われ、予定どおり完了しています。今後とも生活用水の安全・安定供給のため、計画的に建設改良事業を実施するとともに一層の経費節減に努め、安定的な事業運営を図るよう望みます。

単位:千円 (税抜き)

区分	年度比較		比較増減	
	27年度	26年度	金額	比率
総収益	380,385	393,993	-13,608	-3.5%
総支出	338,585	347,033	-8,448	-2.4%
純利益	41,800	46,960	-5,160	-11.0%
営業収益	307,705	320,045	-12,340	-3.9%
営業費用	295,439	293,898	1,541	0.5%
営業外収益	72,681	73,948	-1,267	-1.7%
営業外費用	42,563	48,947	-6,384	-13.0%
特別損失	583	4,187	-3,604	-718.2%
滞納額	31,223	37,591	-6,368	-16.9%
現年度分	21,102	22,869	-1,767	-7.7%
過年度分	10,120	14,722	-4,602	-31.3%

2. 病院事業会計

平成27年度の病院事業会計(税抜き)は収益収支において総収益193,018千円、総支出235,214千円で当年度純損失が42,196千円と対前年度比で3,865千円(10.1%)の大幅な増加となった。この結果、当年度未処理欠損金額についても同様に606,201千円と対前年比で42,197千円(7.5%)の大幅な増加となってしまった。

総収益193,018千円のうち、一般会計からの補助金を含む医業外収益は144,688千円となり昨年度と比して、5,571千円(-3.7%)の減少となりました。また、医業費用は、224,203千円であり、医業外費用については11,011千円対前年度比2.3%の減となりました。

本事業会計は、指定管理者制度における利用料金制を導入しているため、入院・外来などの医業収益はすべて指定管理者に直接收受されされるため、他の事業費用に充当する資金は、一般会計からの繰入金に頼らざるを得ません。そのため、平成27年度決算についても従前と同様に一般会計より負担金及び補助金を合せて124,839千円を繰入れているところですが、対前年度に比しては13,914千円(-10.0%)の減少となったことは評価をするところです。

単位:千円 (税抜き)

年度比較 区分	27年度	26年度	比較増減	
			金額	比率
総収益	193,018	199,486	-6,468	-3.2%
総支出	235,214	237,817	-2,603	-1.0%
純損失	42,196	38,331	3,865	10.1%
医業収益	44,417	38,777	5,640	14.5%
医業外収益	144,688	150,259	-5,571	-3.7%
特別利益	3,913	10,450	-6,537	-37.4%
医業費用	224,203	226,281	-2,078	-0.9%
医業外費用	11,011	11,270	-259	-2.3%
特別損失	0	266	-266	皆減
当年度未処理欠損金	606,201	564,004	42,197	7.5%